

2022年度

東北大学 東北文化研究室 例会 のご案内

東北文化研究室では、日ごろの研究内容を知っていただく機会として、室員の報告による例会を開催いたします。感染症流行以降、オンラインで学会や研究会には気楽に参加できるようになった一方、隣人の研究テーマへの関心はいつそう希薄になってしまったように感じられます。そこで今回は日本の近世に関する内容をテーマとし、身近な室員どうしの研究交流を目的に企画いたしました。報告者は考古学や美術史といった、主に「もの」を中心に扱う学問に取り組んでいます。その方法論を知っていただく良い機会になるものと期待しております。室員の方はもちろん、それ以外の方々も、ぜひともご参加いただけますようお願い申し上げます。

日時：12月1日(木) 13:00～16:00

場所：東北大学文学部研究棟311教室(対面)

※ただし、対面参加は東北大学所属の方のみ
別途、Zoomにてオンライン配信

【報告】

13:00～

●松浦 靖也 (東洋・日本美術史 博士前期課程1年)

— 垂欧堂田善の画業について— 松平定信とのかかわりを中心に —

14:00～

●大沼 陽太郎 (東洋・日本美術史 研究助手)

江戸時代の記録から見る仙台周辺の石窟群

— 東光寺石窟・湊浜石窟を中心として —

15:00～

●菅野 智則 (埋蔵文化財調査室 特任准教授)

仙台城二の丸地区と武家屋敷地区の考古学的調査成果

★申し込み方法

11月28日(月)までに下記URLまたはQRコードからお申し込みください。

(対面・オンライン選択可、途中入退室可)

<https://forms.gle/BcnvuybvomQBhPQf6>



報告者からひとこと

●松浦 靖也「亜欧堂田善の画業について—松平定信とのかかわりを中心に—」

社会人学生として東洋・日本美術史研究室の博士前期課程1年に在籍しております。3年前に本学文学部を卒業後、民間企業に就職し、今年4月に大学院に進学致しました。

主な研究対象は、江戸後期の洋風画です。当時の江戸幕府は他国との貿易を厳しく制限し、特に西洋諸国との交流は限りなく排除されました。しかし、例外的に交易が許可されていたオランダからは西洋由来の技術や知識が長崎を経由して流入し、蘭学の興隆とともに西洋画の影響を強く受けた洋風画が描かれました。

今回の発表では、現在の福島県須賀川市出身の洋風画家・亜欧堂田善(あおうどうでんぜん、1748~1822)の画業について、白河藩主や老中首座を歴任し、幕府中枢で改革を推し進めようとした松平定信とその周辺に広がった文化的ネットワークとのかかわりを踏まえて考察したいと考えています。

●大沼 陽太郎「江戸時代の記録から見る仙台周辺の石窟群 —東光寺石窟・湊浜石窟を中心として—」

東洋・日本美術史研究室で、主に仏像の研究をしております、研究助手の大沼陽太郎と申します。仏像といいますが、日本ではお寺や神社にある木製の仏像=木彫仏を思い浮かべられる方も多いかと思いますが、今回とりあげるのは、そうしたイメージとはやや異なる、石窟の内部に彫られた仏像です。こうした石窟仏は、じつは中国や韓国だけでなく、日本にも点在しており、我々の大学がある仙台周辺にもそうした石窟が多くあります。なかでも七北田川(冠川)沿いにある岩切・東光寺の石窟と七ヶ浜・湊浜薬師堂の石窟は、古代からの交通の要衝にあることもあって、近世の記録にもしばしば登場します。

石窟仏は「動くことのない」仏像です。路傍にあって、常に人の往来を見守ってきました。そうした仏像が歴史のなかでどのように捉えられてきたのか。今回はとくに江戸時代に着目して報告します。

●菅野 智則「仙台城二の丸地区と武家屋敷地区の考古学的調査成果」

私は、片平にある埋蔵文化財調査室に所属しています。当室では、大学敷地内の埋蔵文化財(遺跡)に関する事柄を取り扱っています。例えば、大学敷地内で開発工事がある場合、その下にある埋蔵文化財を傷つけないように、関係部局・開発業者等と調整を行います。そうした調整を行った結果、どうしても保存が難しい場合に限り、やむを得ず発掘調査を実施し、記録を残すことになります。また、近年では出土した遺物の展示等も行っています。

川内地区における発掘調査では、江戸時代の仙台城二の丸や武家屋敷に関する遺構や遺物を多数確認することができます。今回の報告では、それらの調査成果をまとめ、みなさんが働く・学ぶ川内キャンパスの地下に埋もれた歴史について報告したいと思います。

ちなみに、最近公開された「東北大学ギャラリーひすとりあ」に当室の調査成果も展示してあります。

火・木曜日の12時~16時のみですが、無料ですのでぜひご見学下さい。

